

## 令和2年度実施事業（H29～継続6事業）の行革委員会における意見への対応状況一覧

事業名 (R2 当初予算)	事業概要 (R2)	委員意見	所管部局の対応	R4 当初予算の内容 (見直しの内容)
<p>地域で支える子育て 安心事業費 【しあわせ子育て応援部】 73,488千円</p>	<p>経済的理由から放 課後児童クラブの 利用を控えること のないよう、市町 村が低所得世帯や 多子世帯に対する 利用料の負担軽減 を行った場合に、 その支援を行う事 業</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和元年度から令和2年度の放課後児童クラブ利用料軽減人数の実績が若干下がっている。各家庭もコロナ禍で大変な状況にあると思っているので、さらに制度の周知をお願いしたい。</li> <li>・多子世帯については年収 640 万円未満が条件であるが、これについては今後検討が必要なのではないか。</li> <li>・評価を行うにあたり、市町村からの意見の吸い上げのようなものがあっても良いのではないか。</li> <li>・県の出生率を上げるために、県民や、県内への移住定住のためにもPRすべき大事なことなので、このような事業は今後も続けていただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍にあつては、放課後児童クラブにおいても登園自粛や預け控えなどがあり、利用者が減っているところである。今後も、利用料の負担を理由に利用を控えることがないよう、市町村と連携し、制度の周知に努める。</li> <li>・県内の平均的な世帯年収をカバーするよう制度設計したものであり、全国トップクラスの支援ということで、全国知事会でも、事例紹介している。</li> <li>・放課後児童クラブの利用料軽減については、本来政府において制度を創設すべきであり、今後も継続して、政府に対する施策提案を続けていく。</li> <li>・日頃から各放課後児童クラブの実施主体である市町村や関係団体からの相談や意見交換を密にして進めている。今後もしっかりと現場の声をお聞きしながら政策に反映していく。</li> <li>・御意見を踏まえて、取組みを継続していく。</li> </ul>	<p>【予算額】 84,818千円 【見直しの内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後児童クラブは仕事と子育ての両立を図るために不可欠なものであり、利用料の負担を理由に利用を控えることがないよう、また、市町村からの要望もあることから、事業を継続していく。</li> <li>・市町村と連携し、さらなる制度の周知に努めていく。</li> </ul>

事業名 (R2 当初予算)	事業概要 (R2)	委員意見	所管部局の対応	R4 当初予算の内容 (見直しの内容)
<p>妊娠・出産・子育て 安心生活応援事業 費 【しあわせ子育て応援部】 38,502 千円</p>	<p>妊娠・出産・子育て に対する不安を解 消するため、生まれ てくる赤ちゃんとし 育て家庭を社会全 般で応援するメッセ ージを送るととも に、子育て包括支 援センターの充実 等、妊娠期から出 産、子育て期にわ たる切れ目のない 支援を充実する事 業</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動指標と成果指標の設定について、事業概要に実施内容が4つあるのに対し、活動指標や成果指標が1つしかないため、せっかく実施したものがあつたのに評価されないのはもったいない。赤ちゃん応援メッセージギフト贈呈者数以外にも指標として設定できるものがあつたのではないかと思うので、今後、活動指標・成果指標を設定する際に検討いただきたい。</li> <li>・母子保健コーディネーターを対象に研修してはどうか。また、その研修の実施を活動指標に入れても良いのではないか。参加者の後の活動の追跡についても必要ではないか。</li> <li>・出生率向上の観点から、「出産・育児を地域で支える」ということをもっとPRしてはどうか。</li> <li>・全国で7例しかない県内全市町村での子育て世代包括支援センターの設置のことをもっとPRしていけば県内への移住定住と結びつくと思われる。この事業は本当に良い試みだと思うので、今後も引き続き継続いただければ良いと考えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・御指摘を踏まえ、事業内容が評価できる指標を検討していきたい。</li> <li>・現職の母子保健コーディネーター及び今後母子保健コーディネーターになる可能性のある方を対象に研修を実施しており、毎年継続して参加いただき、様々な意見交換等を通じてスキルアップを重ねている。</li> <li>・やまがた子育て応援サイトでの発信のほか、少子化克服に向けて、新たに、結婚・妊娠・子育てを応援するプログラムを一体的に進めPRすることとしている。(右記参照)</li> <li>・御意見を踏まえて取り組みたい。</li> </ul>	<p>【予算額】 53,530 千円 【見直しの内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村からの要望に対応し、事業を継続していく。</li> </ul> <p>&lt;継続事業&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) ようこそ赤ちゃん応援メッセージ・ギフト事業</li> <li>(2) 産後ケア事業及び産婦健康診査事業</li> <li>(3) 母子保健コーディネーター研産会・検討会等の開催</li> <li>(4) 子育て世代包括支援センターの運営支援等</li> <li>(5) 多胎妊娠の妊婦健康診査推進事業</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度は、結婚・妊娠・子育てを応援するプログラム「山形しあわせ♥LIFE 応援プログラム事業」のなかで不妊治療の助成を実施するとともに、本プログラムについてPRを推し進め、周知を図っていく。</li> </ul> <p>※山形しあわせ♥LIFE 応援プログラム事業(161,856 千円)</p>

事業名 (R2 当初予算)	事業概要 (R2)	委員意見	所管部局の対応	R 4 当初予算の内容 (見直しの内容)
<p>届けよう山形の魅力プロジェクト事業費 【産業労働部】 18,208 千円</p>	<p>・「山形ブランド特命大使」の活動を通じた山形の魅力の国内及び海外への発信</p> <p>・平成 28 年度に策定した「メイドイン山形」のブランドコンセプトを踏まえたプロモーション活動</p> <p>・関西圏へのアンテナショップの整備に向けた調査検討(平成 29 年度～)</p>	<p>・関西のショップを山形県単独ではなくて宮城県とコラボレーションして展開していくという考え方は大変良い。コストも削減できるだろうし、2つの県が一緒になってPRをしていると、やはりインパクトも大きくなると思うので、ぜひ成功につなげていただきたい。</p> <p>・コロナ禍において、プロモーションをどう進めるべきか検討して欲しい。過去のプロモーションの手段や方法ごとに費用対効果を検証して、効果的な手段を選択してはどうか。</p> <p>・米は独自にブランド化を図っているの、米を除いた評価をやってみてはどうか。</p> <p>・全体としてイメージアップのために進める事業である。こうした事業は続けないとすぐに順位が下がるので、継続していく必要がある。</p>	<p>・関西圏における期間限定アンテナショップについて、令和3年度は宮城県と合同で出店した。事業費の半額を宮城県から負担していただくことでコストを削減することができたほか、2県の特産品を手にとっていただくことで、6月の出店では過去最高の客単価となるなど、一定の相乗効果があったものと受け止めている。一方で、限られた場所・期間における合同出店は、単県での出店と比較して、1県あたりの商品数や売上が少なくなること等の課題もあった。来年度の開催に向けて、宮城県と協議を重ねてきたが、合同出店は見送ることとなった。</p> <p>・コロナ禍において、どのような手法が訴求力を持つのか、効果的な手法を検討していきたい。</p> <p>・ご指摘を踏まえ、事業内容が評価できる指標を検討していきたい。</p> <p>・これまでの取組みによる機運の高まりを確実なものにするために、継続的な情報発信に取り組んでいきたい。</p>	<p>【予算額】 51,044 千円 【見直しの内容】</p> <p>・関西圏における期間限定アンテナショップを本県単独で出店し、引き続き、マーケットリサーチと県産品のPRを実施する。</p> <p>・アンテナショップ「おいしい山形ブランド」のECサイトを新たに開設し、アンテナショップの商品をオンラインで販売する。</p> <p>・コロナ禍におけるオンライン活用の重要性の高まり及び購入経路としてのリアル店舗の訴求力の大きさから、web とリアル両方の場において情報発信を実施。</p> <p>・ポータルサイトを核とした継続的な情報発信を実施していくことから、サイトの訴求力を表す数値として「サイト滞在時間の増加」を指標とし、目標の達成に向けて引き続き事業を実施。</p>

事業名 (R2 当初予算)	事業概要 (R2)	委員意見	所管部局の対応	R 4 当初予算の内容 (見直しの内容)
<b>バリアフリー観光推進事業費</b> <b>【観光文化スポーツ部】</b> <b>2,000 千円</b>	<p>民間事業者が所有している不特定多数の人が利用可能な観光施設トイレのバリアフリー化等改修に要する経費に市町村が補助金を交付する場合に補助金を交付するもの。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>成果の指標として、県外からの観光者数の設定がされているが、今のコロナ禍やアフターコロナを考えると、観光客の中には県内の皆さんも当然入ってくるわけであり、そういった対象について、子どもたちや障がい者、お年寄りも含めて県民にどういった動きがあるのかという分析も重要だと思う。まずは県内の多くの皆さんがバリアフリー施設に触れて、生活が豊かで充実するということであれば、当然県外から観光にいらっしゃった方についても同じような豊かな生活が御提供できると思っている。是非予算が少なくならないように、何をもって評価するかという評価対象も幅広くに検討いただいて、将来につながっていく事業にしていきたい。</li> <li>この事業というのはやはり豊かな生活とつながっているので、さらに進めていかなければならないと考えている。今後とも予算の範囲でということになると思うが、進めていただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>当該事業については、国(観光庁)で類似の補助事業を行っていること、また、これまでの取組みの成果により観光施設トイレのバリアフリー化が進んでおり、一定の成果が得られていることから、令和3年度をもって廃止する。</li> <li>令和3年度については、当該事業のほか、宿泊施設や観光立寄施設のポストコロナを見据えた新たな需要に対応するための取組みに対して補助を行う事業を実施し、その中で、バリアフリーを含むユニバーサルツーリズムに対応した施設改修等への支援も行った。令和4年度もこのような支援を継続する予定である。</li> </ul>	<p><b>【予算額】 0千円</b>  <b>【見直しの内容】</b>      当該事業を廃止</p>

事業名 (R2 当初予算)	事業概要 (R2)	委員意見	所管部局の対応	R 4 当初予算の内容 (見直しの内容)
やまがた森林ノミクス推進事業費 <b>【農林水産部】</b> 23,291 千円	「やまがた森林ノミクス」をさらに加速化を図るため ・再造林支援 ・県産木材の積極的な利活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>山形県のCO<sub>2</sub>削減目標が高い目標値になっているので、県民に対する啓発活動を強化していくべきではないか。</li> <li>森林はカーボンニュートラルや河川災害予防にも役に立ち、森林療法や森林セラピー、グリーンツーリズムに利用されるなど、複合的な効果を生むため、再造林は必要だと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>やまがた森林ノミクスで進めている森林資源の循環利用は、森林吸収源対策として大いに貢献することから、県民総参加で取組んでいただけるよう積極的な情報発信に努めていく。</li> <li>森林の公益的機能の維持増進を図りカーボンニュートラルの実現を目指す上で、森林の若返りにつながる再造林を進めていくことは重要であり、再造林率 100%の継続とともに再造林面積の拡大を図っていきたい。</li> </ul>	<b>【予算額】 6,336 千円</b> <b>【見直しの内容】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>本事業は、令和4年度から「やまがた森林ノミクス」への県民総参加に向けた意識醸成のための情報発信や普及啓発等に特化した事業へとスリム化を図る。</li> <li>山形県青年林業士活動推進事業は、試験研究事業に移行</li> <li>再造林支援制度推進事業は、再造林推進事業に移行</li> <li>県産製材品高度化促進事業は、JAS 認定工場の配置に一定の成果が認められるため事業を廃止</li> </ul> <p>※ 森林吸収源対策については、新たな事業として、森林の若返りによるCO<sub>2</sub>吸収量の増大を図るための効率的な間伐や低コストによる主伐・再造林の推進に向けた取組を実施する。</p>

事業名 (R2 当初予算)	事業概要 (R2)	委員意見	所管部局の対応	R 4 当初予算の内容 (見直しの内容)
<p>オリンピックメダリスト育成事業費 【教育庁】 106,916 千円</p>	<p>◇本県からのオリンピックメダリスト輩出に向けた選手等の育成・強化事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国民体育大会出場候補選手等の強化</li> <li>・YAMAGATA ドリームキッズの発掘・育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実績が着実に上がってきており、子どもたちもいろんな夢を実現したいと頑張っていると思うので、是非良い形で継続してほしい。</li> <li>・パラアスリートへの支援事業はあるか。運動面の充実ということを考えたときには、パラアスリートの方も活躍できる状況が最も望ましいのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の北京 2022 冬季オリンピックスピードスケート競技で、待望の銅メダルを獲得した。引き続きオリンピックでのメダル獲得へ向け、継続して取り組んでいきたい。</li> <li>・パラアスリートへの支援については、健康福祉部において、競技力向上を図るための活動支援として、大会等参加に要する経費への支援事業を実施している。</li> <li>・教育庁では、パラスポーツを含めた競技スポーツで優秀な成績を収めた者の功績を讃えるため、毎年度、山形県スポーツ賞の表彰を実施している。</li> <li>・今後も健康福祉部と連携し、パラスポーツも含めた本県競技スポーツの振興に取り組んでいきたい。</li> </ul>	<p><b>【予算額】 69,040 千円</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国民体育大会出場候補選手等の強化及び YAMAGATA ドリームキッズの発掘・育成を継続して実施する。</li> </ul> <p><b>【見直しの内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動が少ない競技等の中高生の有望選手に対し、競技団体が活動拠点(地域・施設)を活用し、一貫した育成・強化を図れるよう、新たに支援を行う。</li> </ul> <p>上記のほか、スポーツ報償費として 1,309 千円(山形県スポーツ賞などの経費)を計上している。</p> <p>《参考》 令和3年度山形県スポーツ賞受賞者(パラアスリート)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○大 賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>東海林 大(パラリンピック複数入賞)</li> <li>齋藤 元希(パラリンピック複数入賞)</li> </ul> </li> <li>○栄光賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>太田 渉子(パラリンピック出場)</li> <li>竹井幸智恵(パラリンピック出場)</li> <li>齋藤 京香(ジャパンパラ水泳競技大会 1 位、日本記録樹立)</li> <li>佐藤 博輝(日本記録樹立)</li> </ul> </li> <li>○栄誉賞 <ul style="list-style-type: none"> <li>相田佳奈子(権威ある全国大会で 1 位)</li> <li>丹野 美穂(権威ある全国大会で 1 位)</li> </ul> </li> </ul>